俳諧天尓波抄

三

へ 5
1865
3

○十九家

○曽家

ぞ

凡ぞとは、ことばのおくにおくことばにて、そのことばの筋あらはにきこえぬるのふかく思慮をそなへたる詞なり。わがきみ君とはきんさんをあるなり。古今集に、

しらつゆもこのをばしらぬ。ぞこのをばしらぬ。

人のいにくいことばのんにくいことばのんにくいことばのん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

られ〳〵いづれも。ジャヅとは伝授よりくあるなり。それぞれ
中まで。ジャヅとはすぢうめなるべく。あるべきなる句あ
まりぞ。られも。物の本ばかりなれば。ジヅとよく
はずくし。汨とけくるべくてうめしこころ。月ごろ智月ゞ
られぞといふ。前そぐ。風くらあとらる。伝ぐ。句のりく
といふなど。ジヅとはすぢうめなるべし。此一年ばかりとよ
なく。老をうくるひ。ジヅとは。風くるあとこなる。俳
ヨカ〳〵ねんジヅとは。句のりとらる。いかかと
うとも。ジヅとんくれ。中でほぢんえなるのみるべ
いづれも。人のくとりがてくこうるこの節人をやくこを節の
んくをくるんを

○第二　うこがみ

うこがみくるのこの茶をうがぶやうまれで物りく
らずこれをそうこのなる本の節へむりの節ある人のんを
りすぐくれるをんをうるこ。ほるを。句のとがるこ
ヨれるぐる。ワがをこんをとるぬるむをする
ふかり

荒　かをこ事ぐ花みる人の長刀　去来

けるくをるるるこの人のうれんのうちの物ぬをワがんをぐ
ずりすぐへりすぐてこのいをれるぐをくはをする
んふり。をれぐをしいるる陽あるうをこをねぐ。陽
あくこぬるをぐやくこ。むりの人がなるれぐ
ワぐ方へ月ンををこ句をこをこ

集　秋ぐ。陽をなるはする人ぐ　芭蕉

同

月雖を惜く菅秋雖する八雲が道

猿　里東

[illegible]

初もしてさが命おしいすし　芭蕉

苔なりく[illegible]ぬぶ唐ぐ[illegible]　木節

猿　[illegible]ぐ[illegible]すると[illegible]ぐと　素堂

岩ぶ母で[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ　祐甫

同　うづまきの[illegible]ぬ[illegible]ぬ　其角

[illegible]の白[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

猿　[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ　里東

この白の[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

○寸三　中の[illegible]ぬ

[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

さる。こびめくくること。ちとせぶんを。ふるこゑ。
二人ぐさまるるのこと。ちとせぶんを。ふるこゑ。
そこらびられるく。[illegible]
めること。咲かるぐもの。[illegible]
見ぐ。女とるこぐ。[illegible]
じこ。[illegible]
[illegible]
雲のさうりょうぐ。[illegible]
ざること。蓮[illegible]
ここ。[illegible]
[illegible]
[illegible]

里東　ゝろのこちて。[illegible]
吉次　ちるこじく。[illegible]
野水　一ト[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
芭蕉　うの花も。母[illegible]
[illegible]　[illegible]
羽笠　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　若草[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　

曰 炭をもくくらびて月ぐさのもゆる 野水
俳 とぶねこの蔵の屋ぐもの月 堅重
瓢 なつかしやゆふのゆぐぐ雲ぐびるる 荷兮
員 京ぶかたく神ぐ ぐ 哭
曰 馬見くりかくぐ ぐ 文
春 の炭のまくけぐ ぐ 人
集 蓋よりもうけぐ ぐ の 蕉
曰 口ぬりて 塚の 庵ぐ る 曰
曰 雪しぐれ富士をぬぐ面 曰
俳 駒鳥のねぐ ぐ 白 軒
瓢 なつかしも雑のうぐ ぐ れ 蕉
員 神ぐ あ ぐ ぐ の 法 梅 鈴

曰ぐ倒ぐ下の句をぐ ぐ ぐ ぐ ぐ
春 あくぐ 紅 の ぐ ぐ 梅 旦蕉
冬 今ぐ ぐ ぐ ぐ 乃 矢 ぐ ぐ 青 荷兮
春 敬 ひ ぐ ぐ ぐ れ ぐ ぐ ぐ の 蕉 重五
ぐ ぐ 加 ぐ ぐ 句 ぐ ぐ ぐ 倒 ぐ ぐ ぐ
○ぐ ぐ
集 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ 芭蕉
この句、ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ
ぐ倒ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ
弦 あ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ 嵐蘭
世ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ
ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ

[illegible]

[illegible]れど、これも上古の詞なれば、例なきものなれども、ゆゑあるべきものなり。

○又何ぞ何まで用ゐるべきにあらずや

冬　かづらいくしのもりのもりのもり

かぶ岡やさとさるぐ山門のあるじ　彫くとあぶ波たたくとつく陸
やまとなでしこ　ぐ　聞きあぶ波のいうぐうんとうんとおのぐ　あるる
け上句あるる　こ　れとるるんぐ　穀　ものとるべ　かるるこ　わかるく
ずしく言わるるやんべ　さそくむと　かるのあやまりくや上
古よりもあるるく　くくんえるるぐ　ぐこのあく　これるるぐ
てくくるるとちくくるのるぐへ世るるるるるるる天ぐ波し
こわるこ例あり　下のこちあれの詞を異すると異やあるるり

○廿一　あるるこ我　異セヌ例ヲそし

冬　岸りのおのが春こ我　異うる絶　重五

俳句　このまるるんにく　おるるあるぐが　ぐ異ぐくなる
春ぐやしるるんとるる　るるるるるるるるるるるるるるるる
しるるるるるけるり

集　元日ヲ用無の日こ我ヲ亟ケれ　芭蕉

日　白魚ヨ　價　あるるそうるる　日

獸　冷物ヨ　味のつるるこ我ケれ　洒頑

拾　るぐるぐ　餅るるくりのるる　芭蕉

荒　るるるるる　荒るるるるるるる　蕉梧

○廿二　やるぐるる我　コレハ異スル例ヲそり

荒　るれぐる我あれるるる　乃　春の霞　芭蕉

こるるる　るれるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくのごとくいろいろ[illegible]天狗なるものなどいふべき今一事の[illegible]
うひおぼえなく言靈とをすべきものしかるに
言とをしつけ[illegible]人のこゝろ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○又[illegible]
で人の[illegible]
下の波家[illegible]

○手家

[illegible]

[illegible]天狗波[illegible]俗語[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

物ばかりの書ものとなるものまあるべし。[illegible]

ものとなりてわがさまざまなるものなるべし。[illegible]

[illegible]

べきなり。京人集離別の言の詞書に「人をとどめて」

[illegible]

国字者の逃詞なり。けさぐひなる四典の者の逃詞に「音通」「通用」や

すめ句「助辞」「農語」などこれなり。ひとつをひとつとするなり。

ひとつのものを五十音にとるなり。これをかなづかひとなる。さて

ひらがなとかたかなとをもちひるなり。かりをうんぼかへれば

[illegible]

[illegible]

かの詞書にあるべきなり。[illegible]

べし。おれらに別るべきこころをもてなるべしとつくるなり

[illegible]

[illegible]

世の俗語なり。俗語ニハカヽル誤ヲキモノナレバ。古言ノ貴キヲ[illegible]シルベシ

語とよしとも[illegible]

[illegible]

猿　うちなびくと拍殻恒ちりぐらやん　芭蕉

けりなどうちなびくとあるべきなり。[illegible]

[illegible]

猿　かりうかがふ人をまねぶ[illegible]

炭　なんぬ神を[illegible]　[illegible]　[illegible]

荒　あつぎをむつくつくなく蝉　幾人
同　わがまゝないとする花のあるじか　路通
炭　この島乃餓鬼をとする月と花　芭蕉
同　年よりさめを常住ねもるく　利牛
続　山がや坊らはやとみ認るもり　治國
同　うり野をと火鉢つくる悦ふ　乍木
同　巣の中やあをを細くく家蓮　峯崗
荒　五月雨や板葺を出す市の家　松芳
飄　蝙蝠のわどりてつばさ出く　路通
炭　きつち坊ら上へあげ寸　利牛
冬　めゝ木懐の鐘花をうり　荷兮
飄　にくまれくいつゝ踊の肝をいり　路通

冬　立やめゝきあつく臨海をうた　芭蕉
同　備ものいとゝず数を花の世　羽笠
続　待を待場のあへ迎にげ　曲翠
同　いろゝきゝをあけらすゝぶ　涼力
炭　飯のは一なる芋をとる月　嵐雪
集　うぐりすや竹のあ蕎と花をく　芭蕉
員　いくゝ夏一を形礼をぐりとき　松芳
同　まむの蕎と　振て　引ぜ　約雪
猿　年一の秋雨や　経又をきけばふる秋　長和
炭　夜今ゝ　弓日んのあくゝ低　野坡
員　くる府中を　飯ねぶりゆく　野水
冬　江を西く狩巣　在と世と拾く　重五

春　傾城乳をこうく次あけぶの　昌圭

○まつぷけのうちあつべき詞なれば墨ぬる例なれ。ぬるべきたゞ杉ぬるべきなり。いづれもその墨ぬる詞とくらへ墨ぬるをみくらべ。

猿　福の花これを佛のうつげ（ニセン）ぶ　智月
炭　枝かぐくなりぬなりしを（持ヘル）枯ぶ　湖春
荒　先いとへ枯をとん（ヨスル）のみごゝろ　芭蕉
同　里うすむいつべしるものうるぶ（ヨスル）　吟水
同　沢庵の墓（品川ニテ人ニ別ル）をうるまれ（限ヨスル）秋のくれ　文鱗
同　うぶれく傘に音ゆきを雨風（ヨスル）ぶ　乙洞
続　おのげうまのうるぶ（ヨスル）ぶ　園燕
猿　ひうるや暮のねぬうるを（思ヌ）秋の風　山川
同　低者なれくまぬ峯をゆうく（ヨスル）ぶ　掃妖

同　をうぐれぬ花を牡丹のすうぶ（ヨスル）　金峯
員　月の月利（ヨスル）ぶ　行了
炭　枯ぬる年を（三月尽）ぶのより所（ニヲ）　利牛
続　おぼろうを白酒うりのるぐりぶ（有徳ナル人ニウレテ無官スルほど有ノ餞ニヨスル）　文考
猿　うぐうまし吉次が冠えるぐうぶ（神田祭ヨスル）　其角
同　花ぜうを大ぶ（ヨスル）ぶ　肖古
冬　寅のの乃あうを（大切ニシテ）鍛治のうく切く　芭蕉
同　根拵山寺の体を（ナルテ）ぶ　文考
猿　枯の寺やこの一筋を（スボヘス）蕗のうう　其角
同　朝畫や（明石夜泊）うるぶ蕗を（ミラン）ぶの月　芭蕉
続　うぐうく膠と（ミテ）大事ぐうを　日
炭　細（サヒ）賣のせつぐうを（サヒ）ぶ　炭半

こゝろいづるを異やとなげかり。いづ国の天の河波にたゝ。古今に書る
たゝりのかゝるめるゝ。例こゝに異なるを主体にさだめ。
うのあを。上古のすゑ。けをとの天の河波をゞ。かの例のごとくコレヨカウ
スルなどゝ。つゝをずゝく。歎息のこゝろ。例ゝだりよりゝ例ゝ
ゝ多し。これ異なる例の格なり。かく上古よりつゝをるわゞ国ゝで
ものゝとゝるくゝ。ゝくゝ。いとゝる八雲神詠の音韻との
ゝくゝし。国史中第集中ゝ例ゝ。
○又この異例のゝにくゝつゝのゝをゝ。上古ノ例ハゴノ格ノ例ナリ。これ
を。ゝりゝゝとゝ。ゝづく。ゝヤニ。ゝジヤノニ。ゝノニ。ゝかゞ。ゝ佐倍のゝるり。これも
本義はゝゞゝるゝ。ゝとりゝゝのゝまゞ。ゝゝにさゝるんをゝど
ゝ世ゝゝん。ゝゝるゝ上ゝくゝくゝゝるゝ。ゝゝくゝゝゝ。

徳　　文竹

荒　　ゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

拾　すべけや　朝ゝあるのゝ　きぶ　別　芭蕉

宇数ゝ　ねぐ　ものゝ　いつゝ　俳諧の徒なり。されど　ノ二ゝ　をゝと

ゝゝ　その　こゝる　雲の　ゝ　時ゝ　おゝく　深源　ゝゝ　かゝる　ゝし

○　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

波家

ゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

続　家ゝ　ゝ　杖ゝ　白数の　墓ゝ　芭蕉

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

[illegible]

の二例あり。清山

猿　秋ぐやしくもすくふうごく笠　子尹

〃　名月や初冬寺の栗の木ゝ　男房

〃　やがて死ぬけしきみえず蟬の聲　芭蕉

〃　美しやゆりそめうして花の臭　素弦

〃　海人の苫小油売まどるいとぐち　芭蕉

〃　初ごゝろ鶴ゐる間のさくらゑ　風麦

〃　そこかしやゆ聖よまくまくと夜月夜　〃

〃　春さ　三月　あけぼの空　野水

〃　市中さまざまにしひや夏の月　凡兆

〃　ひくまぐはさまざまいとぐち　智月

〃　花なく鶯うゝ蕎のかゝし　凡兆

〃　そこんのおこゝろ花のつぼむ時　去来

〃　今さ世間ゝ夕やの蝶　畠業

集　山ざくら蕎麦ゝ花ゝ　芭蕉

続　一すじさ花野ゝ道　畑さ　烏栗

〃　蓮花年の毒の三所か　石歳

〃　三日月さ草のかるゝ明ゝ　野荻

〃　徒さうゝく甚さ花さく　樗良

〃　時さ水ゝ鶯ゝ　川柳　素元

〃　暮さ寺ゝ鶯ゝ　旅寓　我器

□ 歳暮を未のあゆみ　水くぐり　山解
□ 何のあれこのあれくつて大師講　如行
□ さびしさは蕎麦をうけける巨燈　桃先
□ 雪ちらり雪ぐれくる里を寂けり　里圃
□ うづくまや壁にうつる影ばかり　芭蕉
□ 冬川や木葉ちる里岩の間　惟然
□ 牛のゆくあとに枯野のさびしさ　梅舟
□ 鶴鷸寄るとぶがごとくぐれ雪　補背
□ 花の寺こよひのねよゆぐるん　重友
□ 山寺花さかりにうつり花　車庸
冬
□ 三日月の東くらく陰のこゑ　芭蕉
□ 秋深し霜よりいとく冷うく　水

□ うゑをはらはらなかるる丸葉　杜国
春
□ 萱草は隠ふ葉き花の多　荷兮
□ 鳥もなれ牛もいのちれ村しぐれ　杜国
□ 寒ふる恋をうゑすぐ淀なかく　芭蕉
炭
□ ひぶくふくしくしくしく軍の大事也　日
□ 恋をの笑ふる義をなりき　其角
□ 陰ふぐく中の男の荷をうく　野坡
□ けしびの葉くくし秋の露　日
□ のあるうはあるはあるはの　孤屋
□ 寒く熱別　家　入　梨
□ 中はしくく沖で人こゑ　日
□ 秀の穂をのうぶ　野倒者　野坡

荒　すぐれて柳をもとりてん　一条
〃　みゝ〜師をもいかゝ移り月見の会　故宅
〃　衣ごゝ中戸ぶきあるの門ぶ　路通
〃　いまづるやきのつゝ東　三つゝ西　甘角
員　さびしさ乗井の扇の表の面　和泉
〃　一里の蛍うゝ川あごり　一井
〃　雪ちるとゝぶ　あるりかゝる　宗雪
〃　駒の高まのつゝ倍落ゝつゝ甲斐　野水
〃　瓢　医まのくまもりのつゝ分別　芭蕉
様　身はられ紙のとう前者　土芳

此句前句ハ一句決ノ如クコノ前句ノ心ヒクヅレ恋ヒクヅレ恋トイフニアメリテ恋トハイハルナリ。
思ヒクヅレ恋ハ自身モ恋サヤウニアルベキコトナルガ故ニ。
コトヲ引ワケテ。コトワレルナリ

ふるゝの例そ。下のうけざるも同じ
○まさそ手ゝつくそ。かりとよむぶ所を。別と重る句あり。これも
同一理例なきあるべ。手意なるべしこゝぶ故異なるもの也

荒　大ゝくそ生自身のさ集のにひひ　防川
〃　わう葉つむあゝく本卯刻る　畑こふ　焚火
〃　鳴宴ハ賞津のあるゝ入るごゝ　測支
〃　月花のそぶめく鼠鬼の本ごりか　鈴考
〃　まゝ而そ　伊勢の点つがこよるふ　馬水

[illegible]

荒　　一橋

[illegible]

荒　　[illegible]

[illegible]

集　　紹鷗羽　　芝蔭

日　　[illegible]

○毛家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の字其面例とすべしとぞ

炭　雲霧とこそ（紙屋ヲ品川ニテ送リテ）ゆくもかなしき　野坡
日　このくれまさるかれの事　杉風
春　楚二　枝ひろげ　うが　庵　松人

前句ハ（むさぼりてきやどにくあかく世界ノ冬文コレラ前句ノ絹ニアタリテモトイヘルニアラズ。蓮ノ穀ヲ思ハセタルモナリ。アシク心エナバ。前句ノ絹ニアタレルヤウニオモハルベケレバ。弁ジオクナリ）

猿　うき月も鼻つぶやくすゝ　蕉雨　九兆
炭　息のつゝ篠をすくひいかり　如竹
員　みるもうしこゝ家紀伊の御祝を　胡及
瓢　文弥本の智恵も繁特が思惑　越人
猿　百姓とまるよりのぼく常掛奇　玄東
俳　人の乳もかく寂そうの掛　沾徳

猿　若楓　茅ぶるもなくもひと盛　曲水
日　男が作やつるる祭も　鍋ひとり　越人
日　人は似く猿もを組む秋の風　除頭
俳　芭蕉咲くふるめし　鬼　蒟蒻　荒雀
炭　この竹をふげ掛掛もさむさ　示峰
日　まぐこのもすもすもすも宰人　野坡
猿　衰老も蕉庵ノ名守ヲトヒテ庵の雪　芸有
日　初しぐれ猿も小蓑をかりげし　芭蕉
日　こもるもすもすもすの浦　猿雖
炭　駿河路や花たちぐれも茶見　芭蕉
春　まゆくもの金もむかり　野水
荒　蛛の巣のこれも苔の蔭　踏通

炭　そもそもあやの猫の毛もとより黒白　梶舟
荒　うち白もそもそちる神の馬屋ぶ　胡及
月　うまちづもち月みる中のひとりぶ　洛水
日　いざとものもまぐ更科乃郎ぶ　黄蕉
日　一本の茄子もあるさまものぶ　杏雨
日　ひとのみもたづ大雪のゆつづぶ　野水
続　冷布もうれ水くさし竟もつり　荒雪
日　ちちぶ寸小豆も市の師走ぶ　正秀
日　二月や大黒柳も梅のもも　野水
荒　木ぐしもそぐ皇つぐ小まぶ　円
績　うるうもそも師走の市のさま　曽良
日　翁草二百十日も差なし　篤

日　くもだりくも年とれ初しぐれ　芭蕉
炭　どの家も東の方は窗をあけ　野坡

○かさあるもとらめ。ふるもとらぐ。紫も新も京もなどふぐ。
ぐふもとらぐや。ちりもことのかはるも。後世つひ紙もぐ。
そのあく。上ちりぐく。上那の酒ぬかるも。あ木も酒ぬしぬ
ちと。上那もあもとつるのもちんえちり。されどされちり
ぐるもの。ちのもつくる事かちぐ。上那ちあもち汗
ものこ一のまをつけくあのあぐ。すづく西面なるぬあるてうの
そちるものとぐ一。ちの西面とちちと。ちちれ
とちそん事一あもぐ。ひとつひちちもちもとつぬ
ちちちのぬもちぐ。ここのあと。上那ちあ木もちぐ。そちくちり
ぐちちかちちなる抱とく。内侍も娘しかどこ西面のあ言外とある

なりとぞ言るべし。つゝまもけんぼうみぐもし。芋葉中一奏　雅

暑言の門霧工加ともよ。みうるもら。みぐもよみぐもらと

とうみを汗。このうるし　紙のうぐもし　葉とうる　道具し　皆ふうのあにく。

この方面にく。昨夜の容様のいうふぐれるのとおぐす所ふと。活の

しくのうるしのもの。面をいうるしのものなること。ひとつく面ぐ

とぐひくつうく。天布波のしくうりを毎一めのひぐくく

猿　題落柿　柿舎

豆　柿る　畑も　本部　なと　多所ぶ　凡兆

これくもひとつく面なるきるれど。これにく味噌部なと雪陽も。

五面ぐるる所ぐすする為ととんぐべ

続　むかくまくく栗も柿もむくの者　沾圃

員　くう柿ままくう柿も皆淡し　傘下

猿　かうぐんも（サニヲカ）柳へしす　羽紅

日　乾　鮭と宣也の痩も寒のうち　芭蕉

続　くひうの年も舅も口きいく　日

日　柚も柿もとぐりりり御影講　沾圃

荒　若月中海も松も山もみず　玄来

ふくいづもも言外は面のくくとぐのくみぐ

炭　年の豆　密柑の様も落ちうく　賈子

この白なぐく。落くる賈子白なれぐ。すくくゆうねくいうく

くくれぐ。この年の豆くみ豆の実。面くくゆる白豆なれぐふり。

くくくれと奪くぐくくいう時く。年の豆もみうんの様もとうん

いうく。面く他の場ぐの落ちうくむくくくくくうくくくくくう

くくむく。豆の豆くくく。上くくくくくく

員　高てさ　玉ゐなかもれ　玉ゐも　一文字　野水

とて　ゐもとこの例かりくらくらくらくらぐ　上の例のらくらくるる　陸ゐ白の
ゐ　例ゐ　猪もゐを　仙むとらふく　人とつゐ　高ゐ　文字ゐくるも
のくらゐ　ゐる　ゐ白の　ゐ　鳴うゐ　ゐ　舞ゐ　鳥ゐとゐ　ゐ白ゐ　高い
行方のくらゐなるべくゐ　よくくんゐゐ　ゐめ　つゐひゐやまるべー

○別やとつゐくやゐ　穀のやなり　上の穀のやをゐくやてんべー

炭　牡丹すくく人ゐや　花ゐくく　撥　南ゐ

これゐ　牡丹すくんゐ　ゐの花ゐ　かゐくゐ　ゐすゐ　ゐるゐ　ゐ花ゐ
とゐ　い　ゐ　ゐ　ゐくゐ　ゐ　ゐ　

2

ほとゝぎす・今はたのもしかるる物とて、うのはなの花を持あそびくらす詞かな。こゝにて、荷とは、すの撥なる人の、荷なる荷をうゝのみくぬ所の荷とをきをとりあつせる撥のごとし。このんにく荷とくるべくくるかな。こしなりくさとりあるべし。但コレより上の句がうゝの花なり。下をものゝ人の所なりとんべ

続　時しいやさくゝの花に鶯ぐもり　東来

月のゝ人かゝくめさくゝの花に。月のゝ人なる撥ごとをもらあくゝやくゝの時くひとなりくゝする為こ。この貝前うゝとゝるゝゝげみえ前ゝごゝ。貝前くゝとする所し。うゝとく実くする所こゝ。みくゝ。さくゝのゝゝるべに。ゝゝより。ゝゝるゝゝくんゝるべ。ゝゝべ表ゝより

炭　さくゝのゝ人ゝ雲雀　鶯　牛

これゝ。鶯ゝ雀ゝ。ゝゝに眼前のゝ前べ。雀をゝゝ。鶯とゝゝゝくゝゝゝゝべ表ゝくゝ表ゝ

炭　約束ようぶみくゝみめぐ敢ゝられ　雲良

続　縁ぬのくくくの花にあくくれく　曲翠

春　初ゆゝみの若葉のゝゝに杓杞ゝ冬　荷号

炭　うゝく拘ゝくゝうたゝねの月　其角

続　時雪前なにゝひゝ抱る三葉ゝ　乂可

月　撥要やゝ縛ゝやくゝぐゝの寄り　沾圃

荒　ゝるくゝや　腑の絡ゝるくゝの蕎　芭蕉

冬　雑ゝゝゝ烏帽ゝゝ五三十　野水

員　大根ぬぎみくほゝくいてぐ　荷号

続　番のゝ小路ゝげくゝ　沾圃

員　里深く踊をつくる二・三日　也虹
日　ついたげくるつくる落る精進　堅水
日　秋風や女車の簪男　蕉雨
猿　蕗の芽とりて切ゆきて　芭蕉
日　竹ばるや畑隣る黒大豆　玄来
員　人並よりぬぎ捨て花ゆく　釣雪
猿　枇杷の古葉に木芽ふくれ　史邦
日　初雪ふり鶏卵のごく初げけ　日
炭　燃しくる薪を流るるごとく　野坡
続　大キナ猪のドンと聞ゆる　惟然
炭　隣の小言やれて鉢に　野坡
員　高くゆるなるれるるる一文に　野水

集　持ぐてむりの一字あるれ　芭蕉
炭　下はくるなりて霜の雲猶　野坡
日　ちりげや生ヲ捨て江の月見　里東
獸　庭てしてちくきけで鳥帽　男房
冬　銀よ餘りてむ月を海　芭蕉
炭　陰に西国武士の前のごし　野坡
日　挑灯の突て消て郭ち　杉風
猿　猪ちりて抱ゆ赤柏　良品
炭　傘よりてちる柳糸　芭蕉
続　ちり氏やそそ口づふ抱ゆ　支考
荒　ちぐりすの色よりぬる坂中か　市柳
日　かぐりあるよかくでくるる柏ちれ　一晶

曰　はつ雪や　降るとかすに　花の色　　秋人

曰　いざのぶれ（スミダ川ニテ）　暁の鶴　ゆ（イセニテ）　新年　　東堂

続　渓萩て　ゆ　ゆ　ゆ　年の雪　　呂丸

荒　ゆ　ゆ　ゆ（送別の馬）　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　　傘下

続　小屋見ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　　針花

荒　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　　秋人

曰　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　　飛泊

続　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　　馬莧

曰　山ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　　斗沒

曰　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　　芋長

曰　居りよりに　河原　鵜　ゆ　ゆ　小菓　畠　　士考

俗言にも。ほとゝぎすのこゑをデとゝきて。

うるさくあるかふにあらずあり。うるさく。俗言にもひとこゑにいひつくすこゝろ。かれあるこゝ。俗言にもこゝの所なりけりのあるやとこゝろ。されども上の所の所のかたちにうるはしくんとれば。俗言にうるさくあるこゝろ。俗言にもかるこゝろ。俗言にもこゝの所。甚だ所でめとくなどゝ。物をこゝの所。こゝの所をこゝ。古言にもこゝ。ほとゝぎすの物と情をこゝ。ほとゝぎすの物をこゝ。ほとゝぎすの物と情をこゝ。ほとゝぎすの物をこゝ。ほとゝぎすの物をこゝ。ほとゝぎすの物

この句、本當に良材を求れば、家造るに、あて不自由なしとなり。また、燕は、うこぎに巣を作るものなり。木とりつくすまでに自由なるべし。土とりつくすまでとなり。されば、こゝに書たるこゝろ、意をとるべし。伝えて、デとなるべし。古へは、口れあるものとなれば、こゝろをとるべし

荒　つゝがなと扇ぐ蚊遣の煙　冬杉
続　蒔まきぐれなりて手出路ぶ　芭蕉
炭　すたれらしく江戸でんなる　柳平
日　馬は出ぬ日もゆぐ　芭蕉
日　ゆぐより菜ぐなりて花の陰　柳平
日　ちゆめぶの中ぐより出る海鼠頬赤　日

日　いく月ぐこゆる逢坂　呼坡
続　やるぐ稼ぐ[illegible]　凡兆
炭　折ぐるさゝでやは墨所　[illegible]
続　八九間立ぐ雨つる柳　芭蕉
炭　ち釣が鼠の去ぐくる沙慶ふ　呼坡
日　藤ぐすぼげる下駄のすゝ花　日
続　屋洗ぐつゝ[illegible]　芭蕉
日　ちれぬ合点ぐ[illegible]　沽圓
炭　ふる裸新[illegible]　柳平
続　まぐ立ま河[illegible]　文考
炭　買こんぶ出ぐ[illegible]　柳平
日　又ち釣も仏の食ぐ[illegible]　日

戸でやすくみ〜居風呂のやね　野坡
ひろつて今ぐ表ぐへする　日
続　うるまぐ市〜の中を押あ　芭蕉
日　やりのけまく早稲ぐや稲ぐ　里圃

但デといひくこの俗言のデの例とあるべき事なるべ。たくぐ

炭　これとたぐ傷仏ましで里うぐ　其角
続　ちの枝あらりもうに綿ぐみる　望坡
日　清水さんで孝〜ぐする　洁圃
炭　ひうくあるまんでくまも稲くくる　朝牛

コレラハイヴレモ。清音ノテナルガ。濁ルハ俗言ノナラトニテ。スヨデトイフトハコトナリ。古言ナラバ〜ぐ〜ぐ〜ぐ

[illegible]句「[illegible]」は土のうへにふかり 乾坤コノ句意ヲ見テ・コノ句ハ・デノ心ナルヿ知ルベシ

炭　日

髪ぬくとて寒踏とゝまる　呂丘

帷子　肩衣をとらめ、暑さにて　日

荒　日

うゝ寄の松を花より初りけり　蕉

集

それぞれとよのはゝ山にくすめ　日

古いづれゝデとゝつゞかば・古言めづらしくにくゝ付うれる

○又上ニ・「何ゝとゝひゝ」句ハ・「何ゝ千ル何ゝと」句ハ・

事一ツ・ナゾ・ゝ・ゝ・ゝ

是非ともくぐらねば異すまじあるべし いそでもそでもぬれぬべし

続　さよふけてより庚申まちの新発形　丈草

○まこと にとりつく ジヤニ ジヤノニ ノニなどの伝説ようすもあり。

これも前のうの所のおもしろさたづつのすゝ 少ぐ上の事ぐこより

て かくはめるさまをかるし。

瓢　この村へひろめて醫者のかりくり　符子

同　色はこゝろ　用こうへ　乙州

同　なるとせめにおつる　釣柳　如人

集　木曽の痩せもぐ歩めて　陰の月　芭蕉

○そのかの引 引 みそ引 引くなどゝ さるべの天の波を繰くうゝ

まつてゆこゝ うれうこゝの傷をうらやくつべくわざ うれてつのぶ

続　かれも 姫 てきかくの内 徒　清圓

同　うぐひすの跡をとゝ雪をとゝ　馬貫

炭　はるも跡をとゝ丸太うぐひす　孤屋

集　景清も花見の所をとゝ七兵衛　芭蕉

続　る供をとゝ悲鳥や 花びらき　菊東

荒　むさし四ゝ やいく所をとゝ みる時雨　東鼎

徒　なるとゝ あるぐりや　野水

荒　月雪のうゝ とゝ 門の松　青東

同　なるゝ事のゝとゝ 俳三日の月　芭蕉

徒　初鳩や 骨なる 鳥も 枝のも　半残

同　ゝゝ なくに似る 木槿ふ　完蘭

続　ゝの魚をとゝ むるゝ 侍ゝ　今日紙

集　すゞしゝ ゝ ゝ おもゝや　芭蕉

○又ハ、ことつうのく、にてとつたゝまあり。

集　　芭蕉

炭　　其角

荒　　荷兮

○まこと「何」とかゝ○詞の中へ用ふ。寄てゝ「なり」ゆえて「ぬれ」ぞ「ぬれ」「ぬ」ふ。「ぬれ」などさらぬ「つ」ふ。これを用ひ、ん、ぐりて下句のかゝ場所。なりゆくんなり

冬　　奥の二月を只なかぶてしぶく　　曙水

俗語にも「モミニモンデ」「イサミニイサンデ」などつかれあり

○止家

【と】

とゝ、「これ」とあれ「人」我などゝ「ふ」「つ」「だ」「う」を「ん」「く」「ま」「り」。

うの俗とゝ、「ま」「く」「ま」「れ」「ま」「ぶ」「ら」「し」「す」「ぐ」「う」「り」

六例あり。「ま」「ま」「ま」

員　いのるとゆくこと。（イフテ）羽織ゝ長て　空水
徒　陸奥壺もひしゃくと。（イフテ）縄のゝ長ゝ　玄来
冬　口ゝと。（号テ）瘧をとらぬる力なふ　空水
徒　人なき無ぶ〳〵むゝ（ヒ）あゝ稲ぐゝ　ヒ貴綾
員　かくするのみやゝと。（イフテ）人のやちゝ　玄人
猿　ゝ（ヒ）ゝ（ヒ）ゝ（ヒ）

続　金鈴と人よりうとき雨のやすき　芭蕉

日　お留守とるれば廣き板敷　凡兆

炭　ちいの内ばかりくらくやもり月の雲　芭蕉

まくこの例のごとくにて行人の例なるあり。

続　ものとやいとなす京の道づれ　馬覓

これぐ予門ちくとてにくく。ドウヤラカウヤ　ラトイフ心。やとこゝでくくい

乃ちず。ふぐ〻ものぐ。

○又ものと識くく例あり。これを上るぎやとるるかとら

くるん。このるのをいでず。このやつにひらわく。なのぐ〻識もるん

かるし。こしまつうぬぐの物とつやるあるてこゝろ識もる

ものくかるるしとみるぐ。ものてくかぐん光くるかやと

ひくれくるこゝのなしたとく。かぐらもじ。くるのぐく。やりのくり

炭　愛の月ぬるとと門をくるとやくり　野坡

猿　内新酒とよぶ。おくて。ものを　九州

炭　明月や富士をみると駿河町　嵐雪

員　柳ちるうと例の莫迦　望水

荒　一重とと山吹のぐくゆべ外　樂堂

日　つゆくとと兒のぬきこくるとき赤ぶ　雲泉

十例のゆこにくあくぐるあり。

続　若月の雲のとみくく綿一畠　芭蕉

うあくまくこみくくとぐ。ぐくくもの。例くんぐ。

あり。そのあく。かとくて。ぐく。この識もるんを。ものくやく。ゆく。みく

くくとつぐるり。ひくせひくく垂かどうもく。新の月とやぐ。てつる

こゝ[illegible]じんと。

○[illegible]ト思フテ[illegible]ナドヤウニ[illegible]今[illegible]ナドヤガジク。むつかしの[illegible]

員　弓川[illegible]勝角力[illegible]　泉
甄　[illegible]大[illegible]ぞ[illegible]　秀
俤　米搗[illegible]　文秀
冬　[illegible]のぶ間のワ[illegible]ぞ[illegible]　野水
素　すぐめ[illegible]切めも[illegible]り北の窗　日
[illegible]
猿　[illegible]俤なし[illegible]　千七
荒　上ケ土よいの[illegible]麦一[illegible]　士寮

○貢二例にのと[illegible]

[illegible]花とする[illegible]

[illegible]ヤウニ　トイフホドニナ[illegible]

[illegible]

俤　[illegible]

猿　[illegible]　金窓
炭　[illegible]草鞋をつる月夜さ　九兆
日　[illegible]お袋の事　芭蕉
員　[illegible]　牛
[illegible]　[illegible]　人

続　くさ〳〵やまのさ[illegible]　芭蕉
員　つく〳〵けふの帝は塩いるく　荷兮
炭　ぐんぐ〳〵もの[illegible]る秋の影　野枝
日　そんもくのぐけて酒の宮中　利牛
日　どうりわれ塚のうら秋月　弱風
猿　芙蓉のむかさ〳〵と蕓　史邦
荒　すぐ〳〵と新ふつくりつくば　如泉
日　すぐ〳〵つもやつるすや土筆　其角
日　まぐ〳〵と蕨のをくりつくば　惹生
[illegible]
○第三例　[illegible]十三
[illegible]我と人。犬と猫とのまじはりの[illegible]

[illegible]
荒　山ぶ〳〵と蝶のとびれぬあ〳〵か　卜枝
日　若草や　数のあ〳〵と　犬のあり　土水
日　馬〳〵馬　馬よりあひくり　郭ち　銑可
続　灌佛や　秋迦と　将蜜と　浅井日士　[illegible]
荒　花ざかり　[illegible]　[illegible]　[illegible]
日　こがら　馬素堂の　[illegible]　如泉
猿　川上とこの川下や　月の皮　芭蕉
続　まも面　[illegible]　日
炭　代遠す　板と梅のまれあり　弱風
[illegible]
続　[illegible]　[illegible]

それぞれ　あるべく　雨とりくだれと

但コノ句ハ・ヒノ句トクラベガトテ・雨とりひそぐれとこのれト
イフ心ナルベケレバ・第一例ノ句ヲヨカサヨクルナリ・ガ
ハスベ
カラズ

このごろうつくしき・よのおもかげにつづくく・片色のあて
すむとぐのかりた・ちんちつく・あこのあとこそれと
なまいつけくらん事・あること・時結ぶ・ちいつづくく・仏と
仏とをちんちいくめて・片言が主片言がやとかるあり・
何と何とよりかの言葉・ちいつく・寄とかりて・ありよ主
あることとるべし・即ちこの「あることとるべ」の句・有名のこ
見のうをとるる意かるあり　コノ句ノ前ニ・素堂ガ「ナガし
トイフ句アリテ・ソレノ句書ニ真如寺如来同帳ノ時
トアレバ・コレモソノ時ノ句ナレバカクハイフナリ・又ハ真如堂ニ元ヲ光寺
トテ堂アレバ・ソノ仏ト二体ナルコトヲイフニヤトモオボエキし・シカラバ
イヅレカマコトナラントノ心ヲ思ハセタルベシテ・フタツトリツカヒタルナリ

○第四例　にぐると　ト云

難とい宮めのころやこしまく・難とうたくこるる
ものとおもひつけさやんこうあるれだ・おなを同じ

集　月とあれど留守のやどや源慶の家　芭蕉
芸　えんやかくてるれど　きぐく　臨亭
口　むさ野とと　ぞの口あり　陸恵
口　勝節をうためどゆるるもむとか　恒車
岸　これくくに時のこと　時の花　吟校
口　ちうくに戻れど長をとまぐみな　同
口　坊ちうくるまで　やとり　仁平次　初年
口　こちもいれどうう的をうす　四校

○第五例　ふやト云

つくるまする[illegible]節[illegible]同じ。引[illegible]同じ。[illegible]
をくいくみるべし。脚結抄[illegible]
語ふり。[illegible]
アロトヤ、ヨカヤ[illegible]。集中一例みえず

○第九例　ヘヅリルヤ　トス

[illegible]
事のいくばくもつくらず。集中一例

これらの九例のあり。俗語にて[illegible]と二種あり

続　かくるかりと[illegible]ゆく秋のうぐ　支考

日　鶉が[illegible]やがて　暮の月　芭蕉

何かいふ[illegible]。[illegible]
言葉のかたちとして。[illegible]

○[illegible]天[illegible]波[illegible]
萬葉[illegible]。登伊の反知[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
人[illegible]
何[illegible]
定家[illegible]
世[illegible]
○[illegible]上の第五例[illegible]同じ。[illegible]

集　[illegible]竹[illegible]蓑と　芭蕉

日　紙衣[illegible]雨の[illegible]　日

蕉　[illegible]

[illegible]

[illegible]

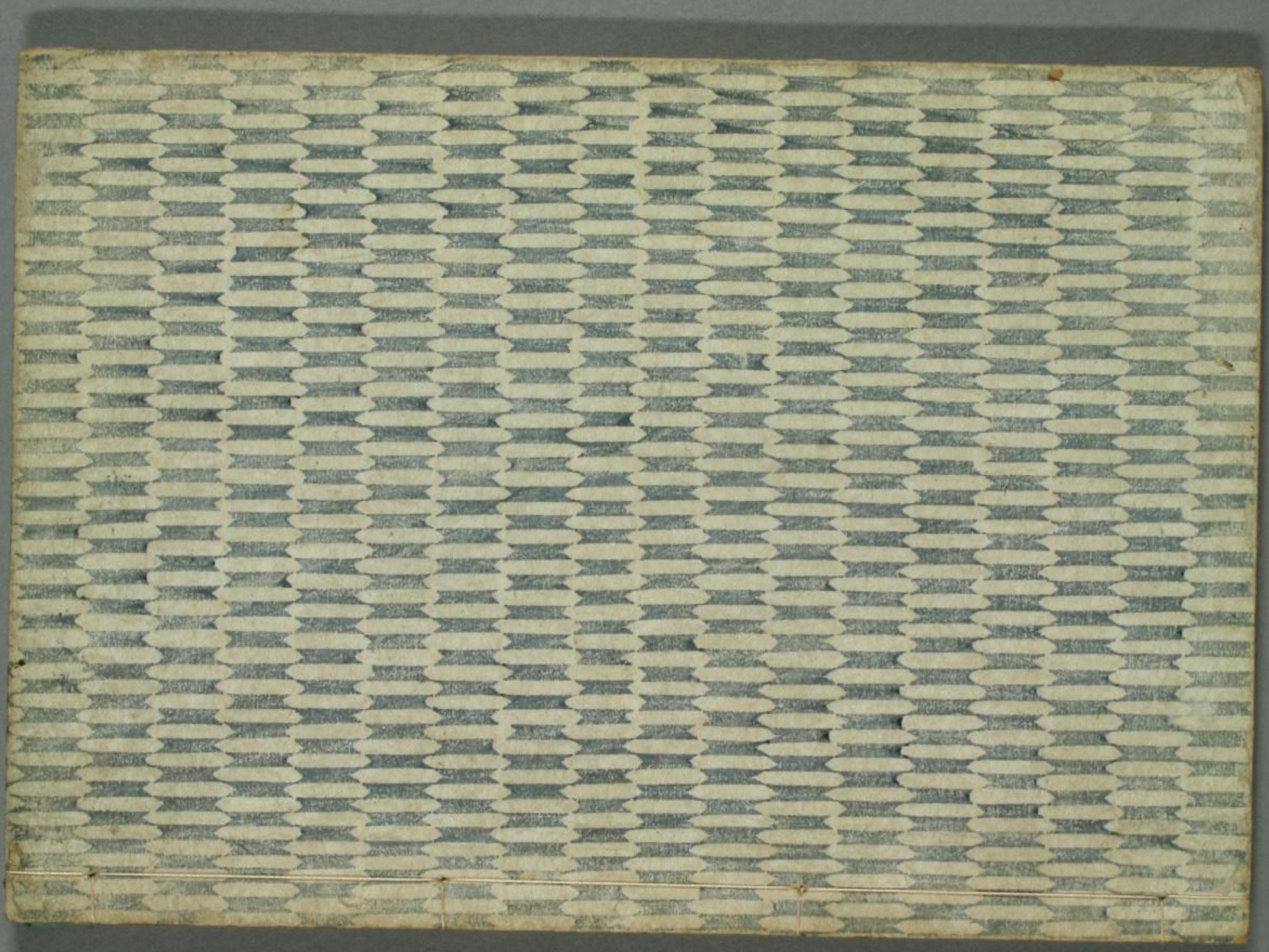
[illegible]

炭　かさとりの日とりどころうやどに待ごろ　利牛

集　そそ月や朝くあれどて　塩こごら　芝蓋

はごとよつの句のトへ・ヤウハリとらの句ばくらくんぐ

○ごとにとるるあり・つくくすれどあくくんふろり　つるくくくれど

つくくくくくなるなどこそくくあり・いづくとも集中一例なり・そのの

事くくくくのれど・むつくくくくく